

平成29年度事業報告

平成29年度 事業報告 目次

I. 総括	4
II. 実施事業	5
1. 普及啓発室	5
1-1 愛鳥週間関連行事	5
1-2 第52回全国野生生物保護実績発表大会	6
1-3 バードピア推進事業	6
1-4 巣箱架設行事・活動	6
1-5 野鳥保護に関するキャンペーン	7
1-6 その他（講師依頼）	7
1-7 イベントによる普及啓発活動	8
1-8 普及啓発を目的とした商品の販売促進	8
2. 調査研究室	9
2-1 コアジサシの渡りルート解明に関する調査	9
2-2 フィリピンにおける国際協力事業	9
2-3 自主調査・研究事業	10
2-4 各種調査事業	10
3. 広報	10
3-1 機関誌「私たちの自然」	10
3-2 支部報	11
3-3 ホームページ	11
4. その他	11
4-1 受託・請負事業	11
4-2 愛鳥懇話会	12
4-3 支部会議の開催	12
4-4 日露渡り鳥保護協力事業	12
4-5 専門委員活動	12
平成30年度第1回理事会配付資料 別表	13

I. 総括

平成 29 年度も、前年度同様、本部収支のさらなる改善がなされるよう公益事業活動の維持及び発展のための基盤づくりと環境整備を目指した活動を継続した。

第 71 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」をはじめとする各種事業は、環境省他関係各機関の協力の下で実施され、当連盟の普及啓発活動の中核となっている。「つどい」については、常陸宮殿下ご臨席のもと、記念式典、愛鳥パーティー等が静岡県熱海市において滞りなく行われた。また、「第 52 回全国野生生物保護実績発表大会」については、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、初めての試みとして、個人・企業・団体に協賛を依頼した。

調査研究事業においては、国内におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査を継続するとともに、海外の共同研究として実施してきているリトアニア共和国におけるコアジサシの渡りルート解明に関する調査を継続し、渡りルートの概要を把握することができた。また、新たにフィリピン共和国における猛禽類の渡りのルート把握や猛禽類保護に資する植樹などの協力を開始した。

バードピア事業については、ホームページ、イベント、口コミ、野鳥関連商品等を通して、登録者を増やす努力をした。

機関紙「私たちの自然」については、紙面の充実を図るため、編集体制を強化し、新体制の元、内容を刷新すべく編集会議で検討した。

公益財団として、組織の中での各支部の位置付けについて内閣府の指導を受け、一定の方向が出たことから、本部と各支部間及び支部相互間の協力・連携を図ることを目指して、当連盟設立以降初めての支部会議を開催した。

昨年度設置された「財政再生委員会」は、名称を「連盟活性化委員会」と改称した。当連盟の収支改善のために委員から貴重なアドバイスをいただいております、そのうち一部は平成 30 年度の事業計画の中で実施を検討することとした。今後も同委員会からアドバイスをいただきながら努力を続け、安定的な公益事業の基盤づくりを行っていききたい。

II. 実施事業

1. 普及啓発室

1-1 愛鳥週間関連事業

(1) 第71回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

5月14日（日）にホテルニューアカオ ロイヤルウイング（静岡県熱海市）をメイン会場に、環境省・静岡県・熱海市・（公財）日本鳥類保護連盟共催、文部科学省及び林野庁の後援により、常陸宮殿下のご臨席の下に開催した。記念式典では、約180名が参加し、総裁賞のほか環境大臣賞などの野生生物保護功労者の表彰が行われ、その後、静岡県伊豆市立天城中学校の生徒による活動発表が行われた。

式典終了後、会場を移し、常陸宮殿下のご臨席を賜り、相模湾を一望に見渡せる会場で約160名の方々を迎え、和やかに愛鳥パーティーが行われた。

なお、関連行事として、愛鳥パーティー終了後、観光船による相模湾錦ヶ浦周辺海域の視察を行った。常陸宮殿下にもご乗船いただき、ジオパーク・コンシェルジュのガイドのもとご視察された。

(2) 平成30年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

全国の小・中・高校生を対象に環境省・文部科学省・林野庁の後援を得て、実施した。3,963校から59,802点の応募があり、この中から各都道府県より推薦された410点を審査し、平成30年度愛鳥週間用ポスターの原画となる総裁賞のほか、環境大臣賞などの入賞作品を選定した。また、支部は、都道府県知事推薦作品の選定などに協力した。

総裁賞には宮城県大崎市立古川中学校3年生 輪島佳南さんの作品が選定された。マガンやオオヒシクイが描かれた、季節感、臨場感ある愛鳥週間にふさわしい作品をもとに、平成30年度愛鳥週間用ポスターを制作し、各都道府県に配布した。

(3) 愛鳥週間関連各種普及啓発事業

平成29年5月8日（火）から14日（日）の間、新宿御苑インフォメーションセンターのアートギャラリーにおいて、「野鳥を知るバードカービング展 鳥の飛翔」を共催した。バードカービングの展示と合わせ、平成29年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールの総裁賞、その他受賞者作品のパ

ネルによる紹介と作者コメントの紹介を行った(期間中来場者1,709名)。支部においては、自然観察会、探鳥会、愛鳥週間用ポスター展、愛鳥写真展及び表彰など、愛鳥思想の普及啓発行事を開催した。

1-2 第52回全国野生生物保護実績発表大会

11月27日(月)に環境省講堂において、環境省との共催、文部科学省・林野庁の後援により開催した。

都道府県知事から推薦された小・中・高校・団体の児童・生徒による野生生物保護の活動実績の中から、事前審査で選定された10件の活動の発表を審査し、優秀校に対して環境大臣賞などの表彰を行った。なお、今回は、昨年度、一昨年度と2年間続いたポスターセッション形式での発表ではなく、各学校が時間を区切って発表する、口頭発表の形式で実施した。

平成29年度は、固定化しつつある応募校の拡大を図るための努力を行うとともに、初めての試みとして、個人・企業・団体から協賛金を集め、参加者の旅費支援に充当した。

1-3 バードピア推進事業

ホームページ、イベント、口コミ、野鳥関連商品等でバードピアをさらに普及し、登録者を増やす努力をした。平成29年度末現在の登録者数は企業52社、個人194人。

1-4 巣箱架設行事・活動

以下の5ヵ所で合計9回、巣箱架設事業を行った。児童向けプログラムでは、巣箱づくりから巣箱架けまでを行った。

(1) 憲政記念館の巣箱架け

3月14日(水)に鳥類保護議員懇話会(代表:野田 毅 衆議院議員)との共催により、同懇話会に所属する国会議員、環境省のほか、千代田区の小中学校生徒の参加、協力を得て、国会議事堂前の憲政記念館北庭園において、巣箱架設を実施した[参加者約90名]。

(2) 麴町小学校・お茶の水小学校(講師依頼)

9月23日(土)巣箱調査[参加者72名]・2月17日(土)巣箱作り[参加者82名]

(3) 新宿御苑

- 11月19日(日)巣箱調査[参加者42名]・12月17日(土)巣箱作り/巣箱架け
[参加者45名]
- (4) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所(講師依頼)
9月30日(土)巣箱調査[参加者40名]・11月23日(木・祝)巣箱作り/巣箱
架け[参加者53名]
- (5) まちの保育園(講師依頼)
11月15日(水)巣箱調査[参加者28名]・12月20日(水)巣箱作り/巣箱巣箱
架け[参加者15名]

1-5 野鳥保護に関するキャンペーン

(1) 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン

4月1日から7月31日までを期間とし、(公財)日本鳥類保護連盟、(公財)日本野鳥の会及びNPO法人野生動物救護獣医師協会の3団体の共催、環境省の後援により実施した。都道府県及び企業・団体の協賛、協力を得て、普及啓発ポスターを3団体で合計100,000枚を作成し、自治体、学校、公共施設、動物美容院などに配布を行い、メディア取材に積極的に対応し、野鳥のヒナを安易に拾わないよう広く呼びかけを行った。

(2) 全国一斉テグス(釣り糸)ひろい2017

5月1日から10月31日までを期間として12道府県、23地点において実施した。本部・支部、会員及び専門委員のほか、関係団体並びに一般の参加を得て、海岸、河川及び湖沼などに放置されたテグスなどの回収を実施した。

回収されたテグスの総量：20,215m(1g=13m)

テグス以外：釣り針、ルアー、ワーム、おもり、撒き餌カゴ、ウキ、疑似餌、金具類、釣り具包装類、天秤、リール等

1-6 その他(講師依頼)

以下の5カ所から講師依頼を受け、それぞれのテーマに沿って講習等を行った。

- (1) (一財)国民公園協会 新宿御苑「集まれキッズカメラマン」
12月17日(日)[参加者21名]

- (2) NHK文化センター青山教室「はじめてのバードウォッチング」
5月25日(木)葛西臨海公園[参加者8名]、9月28日(木)オリエンテーション(於：NHK文化センター青山教室)[参加者7名]、10月12日(木)明治神宮[参加者9名]、11月9日(木)小石川植物園[参加者11名]、12月14日(木)上野公園[参加者11名]、1月11日(木)皇居東御苑[参加者9名]、2月8日(木)新宿御苑[参加者11名]、3月15日(木)明治神宮[参加者11名]
- (3) 麴町小学校・お茶の水小学校「バードウォッチングに出かけよう!」
3月3日(土)北の丸公園[参加者95名]
- (4) 所沢航空発祥記念館・所沢航空記念公園管理事務所
「カラフルな鳥の羽根を作ろう!」
2月25日(日) 所沢航空記念公園[参加者30名]
- (5) 杉並区社会教育センター
「中学生フューチャーサイエンスクラブ・鳥の不思議な世界へようこそ!」
8月3日(木)高円寺中学校[参加者34名]
「すぎなみサイエンスフェスタ・鳥の色塗り教室」
3月4日(日)セッション杉並[参加者80名]

1-7 イベントによる普及啓発活動

以下のとおり、当連盟の活動紹介、普及啓発用商品の販売などを行った。

ジャパンバードフェスティバル2017

場所：千葉県我孫子市手賀沼周辺

日程：11月4日(土)～11月5日(日)

来場者数：40,000人

1-8 普及啓発を目的とした商品の販売促進

野鳥カレンダー、野鳥シート、バードピンズ及び新型の音声再生ペン(G-Speak)などの商品の販売促進に努め、ニーズに応えたデザインの変更、仕様変更を進めた。また、ペットフード業界との協力でバードピア事業を視野に入れた企画提案を行い、野鳥のエサ、バードフィーダーの企画提案・商品開発・販売計画を進めた。

2. 調査研究室

2-1 コアジサシの渡りルート解明に関する調査

(1) 国内

絶滅危惧種コアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して保護に役立てることを目的として、平成25年度から平成27年度にかけて117羽にジオロケーター（渡りルートを把握するための機器）を装着したが、ジオロケーターでは越冬地の詳細な情報を得ることが難しいため、平成27年度からは、GPSロガーを装着する調査を開始し、平成28年度までに国内で86羽に装着した。しかし、装着方法に問題があり回収できなかつたため、平成29年度は装着方法を改善し、新たに38羽に装着した。

なお、本調査研究活動は、三井物産環境基金より助成を受けて行った。

(2) 海外

ヨーロッパにおけるコアジサシの渡りルートや中継地、越冬地を把握して、種レベルでの保全及び国内亜種と比較することによってコアジサシの生態をより詳しく把握し、保護に役立てることを目的として、リトアニア共和国において、平成28年度までにジオロケーターを22羽に、GPSロガーを3羽に装着した。平成29年度はジオロケーターの装着個体を8羽再捕獲し、渡りルートの概要を把握することができた。

なお、本調査研究活動は、イオン環境財団より助成を受けて行った。

また、これに加えて、科研費事業への協力で中国と台湾においても各10羽にGPSロガーを装着した。

2-2 フィリピンにおける国際協力事業

フィリピン共和国において、NGO がボランティアで実施しているサシバ等の保護活動に協力するため、平成28年度から中古双眼鏡の募集を実施して寄付してきたほか、猛禽類の渡りルートの把握に協力した。また、渡りを行う猛禽類や希少なフィリピン特産の猛禽類の生息環境や餌環境を育んでいくため、植樹活動に協力することを検討した。

なお、平成29年度は経団連自然保護基金より助成を受けて行った。

2-3 自主調査・研究事業

外来種であるワカケホンセイインコは現在ねぐらが分散しており、そのねぐらも安定せず移動を繰り返している。ねぐらが安定しないと分布が広がり、農業被害へつながる可能性があるため、ねぐらの把握につとめ、さらには現状を把握するためにねぐらにおけるカウント調査を12月と2月に実施した。これにより、総個体数が若干増加していることが推測された。

また、これまで集めた情報をもとに鳥学会の大会でポスター発表をしたほか、生物技術者連絡会の報告集に論文を寄稿した。

2-4 各種調査事業

サントリー天然水の森の鳥類調査(サントリーホールディングス株式会社)、国指定天然記念物の十三崖のチョウゲンボウ繁殖地の調査(長野県中野市)など、鳥類に関する事業を請け負い、実施した。

3. 広報

3-1 機関誌「私たちの自然」

発行回数：機関誌を6回発行した。(2017年5・6月号 No. 610～2018年3・4月号 No. 615) ※隔月発行。

発行部数：2,500部(各誌)

配布先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局および教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事(ジャパンバードフェスティバル等)において無料配布した。

平成29年度は、11・12月号から、紙面の充実を図るため、編集体制を強化し、新体制の元、内容を刷新すべく編集会議で検討した。特に以下のことに留意し、誌面づくりを行った。

- ・「特集」においては、テーマに対し、いろいろな角度から現在の状況・問題点等を多面的に読者に紹介するように努めた。
- ・わかりやすい誌面づくり(中学生が読んでも理解できる程度の内容)を心掛けた。
- ・寄付を募るためにも、当連盟の活動を分かりやすく読者に紹介し、読者の理

解を得るように努めた。

3-2 支部報

富山県、石川県、山梨県、茨城県、神奈川県、連盟京都の各支部が、支部報「らいちょう」、「朱鷺」、「うぐいす」、「かわせみ便り」、「フレンドリー」「うぐいす」をそれぞれ発行し、各地域の愛鳥思想普及啓発を推進した。

3-3 ホームページ

ホームページを通じて当連盟の活動の広報・PRを行うとともに、愛鳥思想の普及啓発及び入会促進のための情報発信を行った。

4. その他

4-1 受託・請負事業

環境省等国の機関、地方公共団体及び企業などから、以下に示す日中トキ生息保護協力業務やシマフクロウ保護増殖事業をはじめとした業務・事業を受託・請負し、実施した（主な受託・請負事業は別表参照）。

(1) 日中トキ生息保護協力業務

「日中共同トキ保護計画」に基づき、環境省の受託業務として、中国における野生のトキ個体群の保護・回復、生息環境の保護・整備、飼育下個体群の育成及び野生復帰を効果的に進めるとともに、日本の佐渡における野生復帰の取組みの参考とするために必要な調査、協力等の業務を目的とし、日中トキ生息保護協力に関する関連情報の収集及び日中間会議開催支援等の業務を行った。

(2) シマフクロウ保護増殖事業

国が策定した「シマフクロウ保護増殖事業計画」に基づき、シマフクロウを絶滅の危機から救うため、環境省、林野庁、標茶町の受託又は請負事業として、主に釧路支部において、給餌池への活魚の給餌、巣箱の設置、雛への標識調査、監視・生息状況調査などを実施した。

4-2 愛鳥懇話会

12月12日(火)に日比谷松本楼において、約80名の参加者とともに、愛鳥懇話会を開催した。なお、懇話会に先立ち、平成30年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール総裁賞の授与式が行われ、宮城県大崎市立古川中学校3年の輪島佳南さんに賞状と記念品が贈られた。

4-3 支部会議の開催

平成29年10月13日(金)東京都杉並区において、本部と支部間及び支部相互間の協力・連携をさらに図っていくことを目指して、連盟設立以降初めての支部会議を開催した。14支部中、岡山県支部を除く13支部が参加し、情報共有、今後の取り組みについての意見交換などを行った。

4-4 日露渡り鳥保護協力事業

富山県支部において、ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び青少年交流を実施した。

4-5 専門委員活動

モニタリング調査、機関誌などへの情報提供及び地域の愛鳥思想普及啓発活動を呼び掛けた。

平成29年度受託・請負事業一覧（抜粋）

区分	事業名	担当	発注者
I 受託事業	1 平成29年度全国野鳥保護のつどい記念式典等実施業務	本部	環境省
	2 平成29年度日中トキ生息保護協力業務	本部	環境省
	3 平成29年度シマフクロウ保護増殖事業（給餌・監視・生息状況調査・巣箱設置等業務）	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	4 平成29年度シマフクロウ保護増殖事業（管内生息地確立及び拡大業務）	釧路	環境省 北海道地方環境事務所
	5 平成29年温根内ビジターセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
	6 平成29年度塘路湖エコミュージアムセンター解説・管理業務	釧路	環境省 釧路自然環境事務所
II 請負事業	1 サントリー天然水の森 鳥類調査	本部	サントリーホールディングス（株）
	2 平成29年度希少野生動植物種保護管理事業（シマフクロウ）	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署
	3 平成29年度希少野生生物（シマフクロウ）保護管理事業	釧路	林野庁 根釧西部森林管理署
	4 シマフクロウ巣箱及びアタッチメント設置業務	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署
	5 シマフクロウ巣箱及びアタッチメント設置業務	釧路	林野庁 根釧東部森林管理署
	6 平成29年度釧路湿原国立公園自然ふれあい活動業務	釧路	釧路湿原国立公園連絡協議会
	7 平成29年度釧路湿原保全巡視業務	釧路	標茶町
	8 平成29年度 国庫補助事業 中野市十三崖のチョウゲンボウ 繁殖地保全整備事業 モニタリング調査業務委託	本部	中野市